



## 地域精神保健への 関わりをおして

特定非営利活動法人 琴々社 きんさんもり

平野 敏彦

1986年より豊島区にて精神障がい者を支援するための事業所を運営してきました。精神症状や生活の悩みを聴く面接相談や支え合える関わりを目指してのミーティングなど様々なグループ活動を続けています。

地域では就労のための支援を行う目的達成型の事業所も増えました。しかし地域で精神障がいのある方たちを支えていくために本当に大切なことは理解ある関わりとその人がそのまま安心して居られる場を作ることだと思っています。

地域にはまだ支援に繋がらない当事者と家族が沢山います。アウトリーチ型（訪問型）の関わりやネットワークも必要です。精神病による障がいのある方への支援とともにもう少し広く予防と回復を含む精神保健というテーマで出来ることを探索していきたいと思っています。

## 政治分野での男女共同参画を推進する法律 成立！

議会選挙において、政党に対しての限り候補者の男女数を均等にできるように求める法律が、5月に国会で成立しました。この法律は超党派の国会議員でつくる議連が提出したもので、ここに至るまでには女性団体の力強い動きがありました。

生活者ネットワークは、自ら女性議員を増やすことに貢献してきました。この法律制定に向けても共に活動し、小平市議会では2017年3

月議会で「政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書」を提案し可決しています。今後は、候補者の男女均等だけでなく女性議員が活動しやすい議会づくりに向けても、さらに力を尽くしていきます。



## ◆男性介護コラム◆



### 介護は社会のしごと！ —他人に委ねることのすばらしさ

飯塚 秀章

生活者ネットワークの何年か前のスローガンに、「子育て介護は社会のしごと！」というのがあった。私は今でもこの標語が好きだ。真実だからだ。

私は両親を最期まで看取ったので実感しているが、家族という名の密室では介護を“受ける側”の親はいつも地金丸出しでワガママも出やすい。

それに対して介護を“する側”はどうしても支配的に制圧したくなる。そうしないと自分の身が持たない。義務だと思って無理してやるから自然と目が吊り上がる。

できる限り他人に委ねることで、親は適度な刺激と安全な環境に包まれ、家族は穏やかな笑顔を取り戻すことができる。

でもそれにはお金がかかる。だから介護退職をしてはいけない。親孝行どころか一緒につぶれるだけ。悩める人へのアウトリーチも必要だ。

## 生活者ネットワーク3つのルール

- 議員は交代制(ローテーション)
- 議員報酬は市民の政治活動資金
- 選挙はカンパとボランティアで

### 小平・生活者ネットワーク

発行責任者/打木香澄

〒187-0045 小平市学園西町2-15-2

CB一橋学園

TEL&FAX 042-342-4494

E-mail kodaira@seikatsusha.net

http://kodaira.seikatsusha.me/

大地震や豪雨に襲われた日本列島。自然災害の前にわたしたちは何と無力なことか。それでも日頃の備えや地域でのコミュニティづくりなどをコツコツと積み重ねていくことで守られる命のあることを肝に銘じておかなければと思います。被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。被害に遭われた方にも早い復旧をお祈り致します。(H)

## 編集後記



なんかん